

地域活動支援センターみのりは平成28年4月に四街道市鹿渡（四街道駅から徒歩8分）の場所にオープンしました。

いろいろな活動をプログラムに添って行ってまいります。活動の中でも調理実習が一番人気を集め、たくさんの方がご利用を下さっています。他にも手芸・映画鑑賞・運動など、地域活動支援センターみのりはご利用を下さる方の声を大事に受け取り、安らげる楽しい空間を提供できるよう心掛けています。

『お茶を飲みに来ました。』『楽しい所を見つけに来ました。』

『お話をしに来ました。』『のんびり過ごせるところを探しに来ました。』

ご利用をする方の理由は人それぞれでいいと思います。地域活動支援センターみのりはご利用を下さる方を心より歓迎いたします。

いま居場所を探している方はいませんか？是非一度お話をしませんか。

お電話でも見学に来て頂いてもいいです。皆さんに会えることを楽しみにしています。

地域活動支援センター みのり

〒284 - 0003 四街道市鹿渡972-2 ラ・メール2階 Tel 043 - 308 - 6323

新しい方が職員として加わりました

新入職員です。よろしくお願いします。



- | | | | |
|----------|-------------------------------|---------|---------------------|
| 〈ひまわり〉 | 島田 生成さん
越川 千耀さん
喜田 有里さん | 〈くろーぱー〉 | 井沢 みな子さん
田辺 幸子さん |
| 〈青空協同組合〉 | 佐藤 隆さん
須佐美 正則さん | 〈みのり〉 | 川島 玲奈さん |

退職のお知らせ

〈くろーぱー〉

山縣 正典さん
黒木 美佳さん

理事の長澤 様
お花ありがとうございます



総会・理事会が開かれました

6月5日(日)に臼井公民館で総会・理事会が開催されました。

理事会:理事・監事の出席、10名でした。

総会:会員総数31名、出席26名でした。

議題は、27年度の事業報告と決算報告、28年度の事業計画(案)ならびに活動予算(案)で、全議題とも承認されました。

今年度の理事会・総会で特筆すべき事項は、今後3年計画で「社会福祉法人格の取得」と「生活介護事業所の開設」の準備を進めることでした。

なお、承認された、事業報告、決算書、事業計画、予算書等については、ホームページに掲載します。



ごあいさつ

会報のバックナンバーは、ホームページ <<http://minori294.ec-net.jp/>>に掲載してあります。

理事長 立田 芳弘



紫陽花の花が満開になりました。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？
おかげ様でみのり福祉会は8年目を向かえました。開設当初、自立をめざす方のために、また、親なき後のことを考えグループホームのスタートをさせました。現在は、グループホーム4カ所（サテライト型を含む）、就労支援事業所（ピース・青空協同組合）、放課後等デイサービス、児童発達支援事業所2カ所（ひまわり・くろーぱー）、相談支援事業所1カ所（らしんばん）になりました。
また今年度からは新たに、地域活動支援センターⅢ型事業所1カ所（みのり）が加わり、職員も43名になりました。これまでになったのは皆様方のご支援、ご協力のたまものと思っております。名勝と言われる海や山のすばらしい景色も何万年もかけて地球が創り出したものです。そこに

は、たくさんの地球の奇跡がたくさん詰まっています。

みのり福祉会の歴史はまだ浅いですが、皆様方の声を聞いて、地域の中で障がいのある方を中心において運営できればと考えております。障がいのある方の福祉はご承知のように人手不足が続いております。その他にも「生活」と「就労」に対する支援の充実、高齢障害者の介護サービスの利用、障害児支援の質の確保等ちょっと思い浮かべただけでも課題はたくさんありますが、今年度のみのり福祉会の目標は、「職員の資質の向上」です。どこまで、職員が成長していただけるかわかりませんが、職員の持てる力を少しずつ引き出していければと思います。

今回の会報のテーマは「最近思う事」です。職員がどんな所に関心を持ち、どんなことを考えているか、ご一読いただければと思います。（人数が多くなりましたので半分の職員の方に書いてもらいました。）

今年度も引き続きご支援ご協力をお願い致します。

副理事長 川嶋 司朗



私は80年代に「あおいはる」を過ごした。死ぬまで「青春だ!!」と叫ぶ県知事もいるが、私はそうは思わない。年齢相応に送る人生観もあるし、それが「素敵」であるとも思っている。

最近テレビのニュースで、アメリカのロックスターが亡くなったと報じられていた。ちょうど私が高校生くらいの頃、絶頂期を迎えていた歌手で、私もレコードを何枚も買った。レコードですよ（笑）。少し早い人生の幕引きだったようだが、やはり自分なりに歳月を感じずにはいられなかった。好きだった、今でも好きなロッカーや俳優、小説家などが一人またひとりと天国に行ってしまう事は、自分もそこに少しずつ近づいているんだと言う、複雑な心境になる。

新しい音楽も映画も良いが、やはり昔から聞いていた歌や映像にはホッとさせられるものがある。娘に薦められたアーティストも悪くない、いや、どちらかと言うと気に入っている。つい最

近、不倫騒ぎを起こしたバンドも嫌いではない（音楽に関してですが…）。しかし、新しいものも受け入れていく事も大切だが、懐古し自分を落ち着かせることが出来る、聴き慣れた声や音も自分の人生には必要不可欠なものではないかも最近思う。

青春時代から、おっさんになる今までの間、自分の毎日を彩ってくれていた皆さんたちの作品を、後どれくらい見聴きできるかは分からないが、少なくともかまわない、出来るだけ長く自分の心を満たしてくれる作品に出逢う事が出来たら、どんなに幸せかと最近心底思うのである。

昔はどれだけ音楽を聴いても、映画を見ても、本を読んでも、時間は限りなく与えられていたように感じる。一日がとてつもなく長かったように記憶している。しかし、昨今はどうだろう…「あれー、今日何してたっけー」「気付けば一日終わってた〜」みたいな日が毎日続き、気づくと除夜の鐘がまたどこかで鳴っている。

理事長〜、長いお休みをください。あ〜夏休み〜♪

<ピース職員>

押木 久美子

とうとう上の息子が高校三年生になりました。進学を希望している為、「受験」の年になってしまった。

母は資金面で日々頭を悩ませているのに、本人はケロッとして勉強している姿も見せず、のうのうと過ごす姿にイラッ!ときている今日この頃。その中、下の息子は遅いのか早いのか万年なのか、すべてのことに対し反抗的であり、何か言うたびにふてくされ、あきらめてしまい、人のせいにする。

成長の一貫かもしれないが、これまたイラッ!!と私をさせてくれている。唯一の逃げ場が仕事先で職員・利用者関係なく、みんなと笑い合えることである。「悩ませてくれている家族がいて、逃げ場もある私は幸せ者。」と実感してしまい安堵感があると、痩せる道もまだまだ遠いかなあ・・・と最近思っている。

斉藤 秀美

日々思う事は沢山ある中で、やはり生活の中心となる子供の話になってしまいます。

今年小学校に入学した息子は、それまで6年間もの間、保育園に通いお昼寝付きで送迎ありのマイペースな毎日を過ごしていましたが、小学校に入りガラッと生活が変わり学校からの連絡帳を見ると「5時間目は寝てしまいました」と書かれていたり、帰宅するとイ

ライラして感情をぶつけてきました。

保育園の姿しか知らない私は、学校では椅子に座り話が聞けるのかなあ?なんて不安な気持ちでいました。

そして、初の授業参観の日です。

テーマは「自己紹介」でした挨拶もまともに出来ず人前で話すことの苦手な息子が発表できるのだろうか?と自分も緊張しながら見ていました、皮肉なことに1年1組1番の息子は見事に1番目の発表となりましたが、そこには保育園から、はるかに変わり立派に発表している息子の姿があり、びっくり(安心)しました。

今回思うことの一つとして人は集団生活に入り環境が変わっても適応できて人は成長すると実感したと同時に、現在携わっている利用者さん達のピースで過ごす時間はとっても貴重な限られた時間となり支援者としても責任を感じていかなければという思いと今後の成長が楽しみでもあります。

高橋 榮子

今、一番身近に思うことと言えば、狭い世界の身近な事。靴下三枚履いても、底冷えのする冬がやっと終わって、短かった春。そして、クーラーが最強でも、室温30度を下らないピースの夏がやってくること。

その一方で、小さな幸せを感じる事もあり、出荷できないベビーレタスを食べてみると、美味しく、美味しく、「しあわせ～」と言いながら頂いた。この幸せも身近な事。

♪幸せってなんだ～っけ、なんだ～っけ、うまい醤油のある家さ♪というCMがあった。

ピースに来て、必要になりLINEを始めるようになった。このきっかけがなければ、この便利なものを、頑固な言い訳を言ってやっていたかも。サポートしてもらい苦手な事も少しできるようになると、素直に嬉しい。

また、最近のプチ悩みは、聞い

たことを無かったことのように忘れてしまう事が増え、年齢か?とも思うが、思いたくもない、複雑だけどささやかな気持ち。ただ、加齢とともに頑固になりがちなことを感じていたので、なるべく減らし、気持ちを軽くしていきたいな・・・と思っている。

大変な事もあるが、利用者さんの様子、会話、出来なかったことが、できるようになったことなど・・・も単純に嬉しい。

娘に、わからない携帯の質問をした時「わからないところが、わからない」と言われたことが、あったがわからない自分にめげずに自分で壁を(できるだけ)作らずに、いつまでもプチ幸せを感じていたい。

富谷 結花

苦手だった寒い冬のたたかいが終わり、やっと大好きな春が来た!と思っていたら、桜は散り、新緑がきれいな季節になっていました。もう少し春を楽しみたかったという思いも虚しく、日に日に暑さは増していき、時の流れは早いな～と思いつつ今度は暑さとのたたかいに備え夏の準備を始めています。今年の夏も乗り越えられるよう頑張っていこうと思えます。

< 青空協同組合職員 >

関 牧子

ある日の送迎車で私と同年代の利用者さんとこんな話をしました。

「若い時は桜の花を見て、しみじみ綺麗だなあとは思わなかったですよね。」

私も若い頃、母親にテンション高く“ほら桜が綺麗よ～♪”と言われても、あまりピンと来なかった覚えがありますよ。

そんな会話をして皆さんが降りた車内で一人、考えていました。

夕焼け空や花や月や星...そんな



りに夢中である。中学生のうちには与えず高校生になってからと考えていたが、「周りが皆やっている・・・」ということで葛藤の末、折れてしまった。しかしもう少し粘るべきだった。

息子は入学式の後にすぐ部活があるような高校で柔道、柔道の毎日を送っている。身体を大きくするため毎日2合入る弁当箱に栄養を考えた弁当を持たせなくてはならないのである。もう少しで5合入る弁当箱を先生から配られるという。恐ろしい。

まだまだ、手はかかり、毎日の睡眠時間が3～4時間ではだんだん年老いていく身体にきついが、何年か経った時に今の頑張り懐かしく思える時が来るのではないかと思う。後で「もっとこうしてあげればよかった・・・」と後悔しないためにも健康に注意して前向きに頑張っていきたいと思う。

< らしんばん・みのり >

菅原 輝代

最近体を動かすことがあまりなくなった。朝、いつも同じ時間にスマホのタイマーの音を聞き、布団から出ると、顔を洗って、ご飯の支度をして、身支度を行う。手乗りのインコとイモリと愛犬にご飯をあげるのも忘れずに行う。そして、「行ってきます。」と家族とペットたちに声をかけ家を出る。仕事から帰ると、待ちくたびれた愛犬が歓迎の一声をあげるの帰ってきたなとほっとする。ペットたちにご飯をあげ、家族のご飯の支度にとりかかる。平日はこんなふう毎日、時間に追われている。

だから、愛犬との散歩の時間は貴重な運動(?)の時間である。夜遅くなることもあるが、お互いの息づかいを感じながら

歩くのは楽しい時間である。リラックスできる時間である。この子がいなかったら、一人でウォーキングやジョギングなどたぶんしなかっただろう。本人は散歩に行きたいし、ご飯もほしいので帰るのを待っているのかもしれないが私にとっても、好都合なのだ。かわいいパートナーだ。その彼女も今年の夏、13歳になる。ご飯もシニア用のちょっと小粒なものに変えている。歯がちょっと弱っているようだ。眼も悪くなったように思う。ただ、足腰はしっかりしている。いつも外にいるので、通りがかりの人が声をかけてくれる。スーツ姿の男の人以外には、わりとフレンドリーだ。物置の屋根の上に載って通る人に撫でてもらっている。会うために寄り道してくれる人がいる。

親戚の家に行くために4、5日家を留守にしていたら、近所の人から亡くなったのかと思ったと何人も心配していたと聞かされた。愛される子になってよかった。

特に、これといった趣味らしいこともなく流れて行ってしまいう毎日を送っている。犬に引っ張られるようにして外に出る。でも、できるだけ長くこの子といいたいと思う。娘たちが一人暮らしを始めたら、ますますその思いが強くなった。

川島 玲奈

はじめまして。6月頃から地域活動支援センターみのりで働いている川島玲奈と申します。まだ慣れない道で、毎朝(混んでる～、間に合わない～)と鬼気とした顔で通勤しているのが私ですが・・・見かけたら気軽に声をかけてくださいね。これからよろしくお願ひいたします。神頼み、、、とか、霊とか怪奇現象等々、私にはあまり縁もなく、靈感もなく気づきもしないくち

なので、信じてもいなかったのだが、最近少し不思議なことに実際遭遇することもあって、そういう見えないものというのが実際あるのだなあ最近思う。もちろん、縁とか言霊とか、人や生き物の想いや、そういった類の奇跡的な偶然、必然的なものは信じているし感じてはいるのだけれど。

2月に勝浦の誕生寺という所に、寒いけれど景色も美しい初詣がてら(遅い、、、)家族と行ったときのこと。次の日、職場に行ったらある患者様から「あれ、昨日どこか神社とかに行きました?足元に狛犬みたいなものが2匹うろちょろしてますよ。」と声をかけられた。すごく驚いたのだが、誕生寺から少し離れたところに小さな寂れた神社があり、そこにあった狛犬がなんだかとってもかわいく見えてなでたりしたのだ。

また、つい先々週、10年可愛がっていたリスの5年目の命日の前日に、なぜか玄関にヒマワリの種が落ちていてすごく驚いた。最近忙しくてお墓参りにも行ってあげていなかったの、寂しかったのかなあとちょっとうるっときた。

そういうなんだか信じられないようなことが、ここ最近立て続けにあって、そういうものが見える人って本当にいるんだなあ、不思議なことってあるんだなあ最近つくづく感じ、面白いなあ、なんて思っている。



(左列/手前から) 齊藤秀美 富谷結花 野本美沙子
(右列/手前から) 市原章子 高橋榮子 神野孝浩 押木久美子



川島玲奈 前川優香 菅原輝代

れます。
送迎のルートはナビ頼りとは
いかなことが多いのでアナロ
グに戻って覚えるよ
うにしたいです。



田辺 幸子

6月6日から働かせて頂いてる
田辺幸子です。

中学を卒業してから今まで飲食
で働いていたので、わからないこ
とが沢山あり、皆様にご迷惑をお
かけすることもあると思いますが、
ご指導の程よろしくお願ひ致
します。

一日でも早く仕事を覚え、子
どもたちへのより良い支援をでき
よう努めます。

最近私の食欲が止まりませ
ん…(笑)

子どもたちと毎日楽しく遊ぶ
なかで子どもたちのパワーに負
けないようにとエネルギーをた
くさん使うからでしょうか？子
どもたちの遊びや発想力に刺激
を受け、真剣に物事へ向けてい
るキラキラした瞳、笑顔に元氣
をもらっています。気が付くと
家にいても子どもたちがどうし
たら興味をもってくれるか、喜
んでくれるか、困っているかを
考えています。

本当に子どもたちが可愛くて
しかたありません。子どもたち
の為に知識を増やし、ひとつ
でも多くできることが増えると
よう支援して参ります。

今日もご飯をたくさん食べ明
日の仕事への活力にしたいと思
います。

< ほーむ職員 >

高橋 和也

みのり通信を首を長〜くして
待っている1億2千万人のファ
ンの皆様。今日も高橋和也は元
氣です。私事ですぐ30歳を過
ぎてから体の所々に違和感が出
てくるようになり、子供の少年
野球でバッティングピッチャー

を任せられ子供相手に本気で投
げたら次の日は肩が筋肉痛で
シャツを脱ぐ時に少し苦勞して
います。生まれて10年程しか
経っていない子供達に負けたく
はないので毎週末が決戦の日と
自分に言い聞かせています。
「大人げないのでは?」「星一
徹的教育はもう古い!」など
色々な意見があるとは思いますが
一つ言えることは子に期待し
ない親はいないという事。

大人が他の子どもに怒れない世
の中と言われてはいますが、最近
こんなことがありました。少年
野球の入部体験の兄弟が練習中
にふざけ合い、しまいには喧嘩
をする始末。ノックをしていた
自分はおもわずこれから野球を
始めようとしている兄弟を怒っ
てしまいました。家に帰るとそ
の話は嫁の耳に入っていて「ま
だ2年生だししょうがないで
しょ。これで野球を始めなかつ
たらどうするの?」となぜか自
分が怒られ、一週間その兄弟の
ことが気になって迎えた次の週
末。グラウンドにあの兄弟がい
るではありませんか。後ろから兄
弟のお父さんが近寄ってきて
「先週はすいませんでした。ま
たふざけていたら怒ってくださ
い。」と自分の子供を怒られた
ことが嬉しそうに話をしていま
した。グラウンドに来て楽しそう
にキャッチボールをする二人を
見て「こいつらを甲子園につれ
て行つたる!!」と星一徹張りの訳
の分からない事を思ってしまったとさ。

話が360度変わって、北海
道で「しつけ」と称して山に置
き去りにされた小学2年生の行
方不明事件がありましたよね?
教育評論家は「虐待だ!」と騒
いでいましたが自分も子供のこ
ろに姉と大喧嘩したら親に
「ここから歩いて帰れ!」と言
われて船橋にある“ららぽー
と”から実家の佐倉まで歩いて
帰ってきた事がありました。しか
し、別に「虐待だ」なんて思
わず自分達がいけなかったから

しょうがないと幼かった自分
でもそう考えていました。朝のワ
イドショーの某人気キャスター
も自分も子供をしつけで置いて
きたことがあると話していたし、
賛否両論あると思いますが
親なんてみんな同じだな〜って
少し安心しました。

よく“叱る”と“怒る”の違
いは?と聞くことがありますが
ヤホーの検索サイトで調べると
“叱る”は、感情的にならず冷
静な言葉で注意をすること。
“怒る”は相手に対して激しい
感情のままに言葉を発してしま
うこと。と書いてありました。

自分は常に怒っている分類に
入っているの心配でしたが
最後に書いてあった“本気で子
供と向き合っているからこそ感
情から言葉が出る時もある”
の言葉を見た瞬間に明日からま
た星一徹でいこうと誓った瞬間
でした(笑)

あっ!最近思う事は・・・
「コクテツ」「ズック」「ポケ
ベル」「シッカロール」を知ら
ない後輩が増えてきて歯痒い
と思っている事です。チャンチャ
ン♪

瀬浪 真子

この春、息子が高校に無事入学
し娘は中学2年生になった。

振り返るとその時々が大変で、
自分の子を育てる難しさを感じ
た。子どもが小さいころはよく
「自分の時間が欲しい。」と
思ったりしたが、今は子ども
たちがそれぞれに部活、塾、交友
関係で忙しいため、だんだん親
離れして行くのだと思うと少し
寂しい気持ちがある。

娘はLINEで友達とのやりと



荒木理恵 高橋和也 森 政雄
瀬浪真子
菊地久子 長戸由香里 大島芳江

身近にある自然から感動を得ら
れる今の私は幸せだなと★

また歳を重ねるの
も良いものだなと★



川上 寛子

私の最近思うことは、毎日暑
くなったなと思うことです。こ
こ最近気温が30度近く上がる
ことが続いており、毎朝天気予
報で今日の気温をみるたび驚い
ています。

そんな中でも青空協同組合で
は畑作業や地域新聞のポスティ
ング等の外作業を行っています。
皆さん汗をかいて作業して
いる姿に、私もがんばろうと思
うことができます。熱中症に気
を付けながら暑さに負けず、
日々過ごしていきたいと思いま
す。

佐藤 隆

4月から青空協同組合で勤務
するようになり、最初に「利用
者さん」という言葉を聞いたと
き、福祉の現場での、利用する
人すなわち障がい者を大切にし
ようという意気込みを感じると
同時に、何か違和感を覚えてし
まった。

40年程前に、私が知的障が
い児の施設で働いていたときに
は、「利用者さん」とは誰もが
思いつかない言葉であった。当
時の福祉施設は、現在のように
多様化しておらず、児童も成人
も入所施設が大半であり、利用
者とは入所者であった。また、
私が勤務していた施設の看板に
は、終戦後の名残りで、収容児



高橋良彰 浅野 亨
佐藤 隆 川上寛子 石原善彦 宮城かおり
新山悠里 関 牧子 須佐美正則 関口綾子

入所施設と書かれてあったぐら
い人権意識の薄い時代でもあつ
た。重度の障がい児は、教育を
受ける基本的な権利(憲法第2
6条)さえ認められておらず、
私が担当していた子どもが、生
涯で初めて登校した日は、その
子自身の中学校卒業の日であつ
た。二度と教育を受けることが
できなくなったのに、翌日の朝
刊には、美談としてその写真が
載った。要するに当時の福祉
は、施しであった。

だからこそ、現在「利用者さ
ん」とさん付けされた言葉に
は、社会的な認知を目指し、施
設や制度を利用する障がい者を
大切にしようという気概が感じ
られる。私たち職員は、「利用
者さん」の権利を常に尊重しな
ければいけないのだと思う。

しかし、その一方で、私のよ
うな一度福祉の現場を離れた、
浦島太郎的な者だからこそ感じ
てしまうのかもしれないが、
「利用者さん」と、おもねるよ
うな言葉には、違和感を覚える
のだ。40年前の当時には、糸
賀一雄の流れをくむ田村一二や
池田太郎という先駆者たちが存
命で活躍されていた。彼らは、
地域の中で一般の人にも障がい
のある人も、ともに生活をする共
同体づくりを目指され、滋賀県
の茗荷村(みょうがむら)、信
楽(しがらき)青年寮で実践を
行っていた・・・中断!今の私
にはそれ以上書く力
も、実践力もない。



須佐美 正則

メディアで最近よく取り上げ
られている。外国からの観光客
が増加している。増加したこと
によるメリット、デメリット。
(メリット)

・観光客の爆買による経済効果
(インバウンド)
・スーパー、ショッピングモー
ルに観光客がいっぱい
(デメリット)

- ・習慣の違いによるトラブル
- ・平気で信号無視、児童に悪影
響が心配
- ・観光客の為に早くからホテル
を押さえられる為、ホテルの予
約が出来ない、またホテル代
の高騰 以前であれば5000円
で宿泊できたホテルが1000
0円

メリット、デメリットをまと
めてみましたが振り返れば30
年前の日本人と同じ。もう少し
時間がかかるとは思いますが、
少しずつ改善されることをせつ
に願っています。

< ひまわり職員 >

伊藤 郁

私が最近思うことは、子ども
へ声を掛けるタイミングと言葉
の難しさである。

ひまわりを利用して下さって
いる子どもたちも年齢が上が
り、中学、高校生の方が増え、
まさに思春期真っ盛りである。
実は自分の子どもも上二人が同
じ状況にある。

最近子どもたちに何かを伝え
るときにまず考えるのは、自分
が思春期にどう感じていたかと
いうこと。「自分はもう子ども
ではなく、大人なんだ!」とい
きがっていた自分を思い出す。

生活のほとんどを家族に支え
られていたにもかかわらず、何
を持って「大人だ」と言い切っ
ていたのか、少し恥ずかしさも
感じるが、その時の自分は本気
でそう思っていたのだ。

そんな時に自分が悩んでいた
ことは、他者との違いだったよ
うに思う。友達は自分よりもお
小遣いをもらっている。誰と
も楽しそうに話をしている。彼
氏彼女がいる。自分が理解でき
ない話や授業を簡単に理解して
いる。等、なんでも心の中で比
べて、劣等感を感じていたよう
に思う。

そう思い返すとひまわりの子どもも自分の子どもも悩み多き日々を過ごしているのだと感じている。日々の生活で、「悩みはあるの?」と表情を確認する毎日が続いているが、思春期真っ盛りの子もたちに周りの大人は何が出来るのか?何をすべきなのか?これが、最近私が思うことの大きなひとつとなっている。

他者との違いに劣等感を抱いたとき、心が辛くずっとモヤモヤしていたような気がする。年月を重ね、他者との違いを自分の自信に繋げられるようになったのはいつの頃だったのだろうか。自分のモヤモヤした気持ちをコントロール出来るようになったとき、晴れ晴れとした気持ちになれたのかもしれない。

その成長を支えるために、周りの大人が出来ること。それは悩んでいる子どもたちに多くの言葉は掛けず、見守る勇気を持つこと。不安定な様子や苦しそうな姿を見るとつい言葉が出そうになるが、それを今伝える時期なのか、自分で答えを見つけ出せる子どもの力を信じ、少しの間でも言葉を飲み込む勇気が必要なのかもしれない。

そのかわり「あなたはあなたのみまで良い!」とサインを送り続けること。自分にとって、尊い存在であることを伝えることで自信に繋げていけるのかもしれない。

自分も子どもと一緒に成長させてもらっていることを喜びとし、今年度も過ごしていこうと思う。

島田 生成

「最近思うこと」という題で私は何だろうと考え、思いついたものがありました。それは、私の友人の話です。

私の友人は4月から美容師になりました。先日その友人と久しぶりに会い、ヘアカラーのモデルをさせてもらいました。友人の働いている美容室に行くと私

の知っている友人ではなく、美容師として働いている友人が目の前にいました。友人は真剣なまなざしで先輩の美容師の説明や注意点などを受けながらカラーをしてくれました。普段遊んでいる時の姿とは全く違ふ少し驚き、すごいなと思いました。美容師としての自分の夢を叶えるために頑張っているのがすごく伝わりました。友人はカラーやシャンプーなど様々なテストに受かりステップアップできるように毎日夜遅くまで自主練習をしていました。このことを知っていたので、カラーの途中で先輩の美容師がチェックをして見ていた時に「上手にぬれている」と褒められていて私も嬉しい気持ちになりました。私は友人の働いている姿を見て、私ももっと頑張ろうという気持ちにさせてもらいました。職種は違ふけれど、同じ4月から社会人ということでお互い気持ちを高め合っているいい関係だなと感じました。

他にも保育士として幼稚園で働いている子や保育園で働いている子が友人にいます。友人と会ったり遊んだりすることはリフレッシュになると共に、明日からまた頑張ろうとやる気をもたらすことが出来ます。この気持ちを大切にしてください。私ももっと頑張りたいです。

越川 千耀

私が最近思うことは、発語のない子ども達がもし話すことが



猪木健治 三好優哉 伊藤 郁 喜田有里 越川千耀 島田生成 畑山雅子

出来たらと思うことがある。

4月からひまわりの職員となり、初めて発語のない子ども達と関わった。2Fのベランダで子ども達と遊んでいると、ベランダから友達と仲良く会話をしている小中高生を見かけることがある。このとき、自分の目の前にいる子ども達が話することができたらなと思った。「先生、あのね!」って学校や家であった楽しいことを話してくれたりするのかな。また、ひまわりでのたくさんの友達といろんなおしゃべりをして遊ぶことができたならもっと楽しいだろうな。また、自分の気持ちを言葉にして伝えたい相手にすぐに伝えられることができたなら気分ももっとスッキリするだろうなと思った。

しかし、発語のない子ども達は話すことは出来ないが、まわりの人が話している言葉はしっかりと理解している。「おやつ時間だよ!」と伝えると、おもちやを片付けて手を洗いに行く。「帰る時間だよ!」と伝えると、帰る準備をする。おやつを食べていて「おいしい?」と聞くと単語だけ話せる子は「おいしい!」と言ったり、一緒に遊んでいるときに「楽しい?」と聞くと、笑顔でニコッと笑ってくれる。言葉がなくても覚えた歌を音程がはっきりわかる程に口ずさむことができたり、自分の伝えたいことをジェスチャーや自分の知っている単語、話せる単語を使って子ども達なりに一生懸命伝えようとしている。

職員となり、2ヵ月が経とうとし、子ども達のことを少しずつ知ることができた今、発語のない子ども達が話することが出来たらと思ったのは発語のない子ども達の接し方に戸惑っていたのではないかなと思った。会話することが出来なくても子ども達が遊んでいるときはいつも笑顔だ。楽しいことはたくさんあるんだなと思った。まだ子ども達



のことは知らないことがたくさんある。これからは仕事をしながら子ども達のことをたくさん知っていきたい。

喜田 有里

この4月、息子達がようやく自立となり家族3人がそれぞれに生活を始める事となりました。私は50年以上生まれ育った名古屋を離れ、千葉へ移住してきました。千葉に来た理由は単純で「海を身近に感じて暮らしたい」それだけでした。

希望を胸にこれまでの様に、「何とかなる」の精神で、千葉での生活がスタートしました。

親しい友人たちが私の移住をきっかけに、毎日「安否確認です!」とグループでメールを送り合う様になり、それが本当に心強く有難いものとなっていて便利な時代に感謝です。今、あらためて友達の存在の大切さを日々痛感しています。

息子達が手を離れ、社会へ旅立った事で、私の子育ての区切りでの達成感は大きく深いものではありません。ですが、同時にとてつもない淋しさが襲って来ました。

突然のひとり暮らし、環境の変化など、色々重なった事も確かですが、それは想像以上のものです。そんな状況の中で思ったことは「人は1人で生きていくのではない。」と言う事です。まだまだ健康な身体にいる時でさえも、やはり何かのかたちで支えられて生きているのだと言う事です。そして反対に自分の存在が誰かを支え、何かの役に立っているとすれば、それを知る事が出来た時にも「1人で生きているのではない。」と言う事を実感できる時だと思えます。

今はもっぱら周りの人々に助けて貰いながら毎日を過ごしているの、本当に感謝するばかりですが、先ずはひとり暮らし

に慣れて、自分なりの淋しさの解消法を身に付ける事を課題として、いつかは自分が誰かの支えとなり、何かの役に立てる存在になれる事を心に描きながら、これからは日々関わっていくすべての人々を大切に思い生きていきたいと思っています。

辛く、大変な時があれば1人で悩んだりせず、まわりの誰かに心を打ち明けるだけでも救われる事があります。そんな体験をした人は、きっといつか「今度は自分が」と思うのではないかと思います。大袈裟な表現かも知れませんが、生きる希望を繋げる為に、「1人で生きているのではない。」と言う事をいつも心に忘れないでいたいと思います。

<くろーばー職員>

山縣 正典

原発のことであるが、お金ばかりばかり、全然収束する様子はない。凍土壁だの汚染水タンクだのと色々作っているが、人間が制御できない物を作ってしまった。

これから先、何万年も人類が収束に向けて従事する仕事を残さなければいけなくなってしまう。しかし、「原発はもう止めよう。」と言う方向に向かっていないことである。

もんじゅも廃止の方向になっていたが、また続ける事になったと言う事である。

チェルノブイリでさえまだまだ大変であると言うことである。日本は、炉の中がどうなっているのかまだ全く分からない状態で、放射能を海にどんどん垂れ流している。

地球規模で汚染をしまっている。世界の国々に迷惑をかけるようになっていくと思う。世界中から賠償を請求されたら、日本は無くなってしまわないかと思う。

福島の汚染物や使用済みの燃料は誰がどこに処分・処理するのかわからない。

そういった原発を国内あちこちで再開をしていって欲しくない。

利権が絡んでいるのかどうか分からないが、目先の事にとらわれず人間が制御できない地球の自然環境にないものを、孫子の代に残してはいけないと思う今日この頃である。



黒木 美佳

「自分の支援は合っているのだろうか?」毎日子どもたちと関わっているときに、ふと思うことがあります。そんなとき私は「相手の立場になること、相手と同じ目線に立つこと。そうすれば、見えないものも見えてくる。」という言葉思い返しています。してあげている、指導している、となってしまうと見えるものも見えてこないのではないかと思います。支援者と利用者という考えが必要な時もありますが、遊ぶときはたくさん子どもたちと遊んで、たくさん汗をかいて「あー!今日も楽しかったー!」と言って帰ってくれる居場所を作っていきたいと思います。

井沢 みな子

最近思うことはデジタル化が進んでなんでもデジタルに頼り過ぎていくと思います。

知らない場所へ出かける時には車のナビに場所を入力すると行きたい場所へ連れて行ってく



富彌真奈美 田辺幸子 黒木美佳 愛甲夏美 清水こずえ